

氏 名 守谷 誠  
学位記番号 医博乙第245号  
学位授与年月日 平成18年10月4日  
審査委員 主査 教授 塩飽 邦憲  
副査 教授 高畠 利一  
副査 教授 森竹 浩三

### 論文審査の結果の要旨

近年、種々の感染症が動脈硬化に影響を与えることが報告されているが、Hepatitis B virus (HBV) や Hepatitis C virus (HCV) 感染の動脈硬化に与える影響については一定の見解が得られていなかった。今回の検討では、動脈硬化関連疾患や肝疾患の治療を行っていない肝機能がほぼ正常に保たれている健診受診者 1,806 例を対象として、HBV および HCV 感染の動脈硬化に与える影響について断面疫学調査を行った。1,806 例中 HBV 感染陽性者は 39 例、HCV 感染陽性者は 31 例で、それぞれの感染陽性者の収縮期血圧、下肢動脈閉塞を反映する Ankle brachial index (ABI)、動脈の硬さを反映する脈波伝播速度 (PWV) を、HBV、HCV 感染ともに陰性の対照者と比較した。HBV 感染陽性者、HCV 感染陽性者、対照者との間に収縮期血圧、左右 ABI、PWV 値に有意な差を認めなかった。さらに、3 群間で有意な差を認めた性、飲酒・喫煙の有無、総コレステロール値、中性脂肪値に加えて、動脈硬化の交絡因子である年齢、BMI、HDL-コレステロール値、血糖値にて補正して比較検討したが、右 ABI 以外の動脈硬化の指標に有意な差を認めなかった。このため、HBV 感染および HCV 感染そのものは動脈硬化の進展に影響しないと考えられた。